

史跡水子貝塚保存整備基本設計 報告書概要版

令和 8 年 3 月

(株) 歴史環境計画研究所

目次

I 業務概要	1
1. 目的及び概要	1
II 基本設計の内容	3
1. エントランスゾーン	3
(1) 史跡名称板と大型解説板の設置	3
2. 学習ゾーン（展示館）改修計画	4
(1) 内装の改修	4
(2) 水子貝塚ガイダンスの展示計画案	6
3. 縄文時代の体験学習ゾーン（学習広場と厨房施設）	7
(1) 学習広場	7
(2) 厨房施設	8
4. 植栽計画	9
(1) 植栽の方針確認	9
(2) 植栽の計画	10
(3) 管理設備の計画	11
5. 排水計画	12
6. 舗装計画	13
7. サイン・看板	13

I 業務概要

1. 目的及び概要

(1) 目的

富士見市では、史跡水子貝塚の保存を図り後世に継承するために平成6年度に供用を開始した「縄文ふれあい広場 水子貝塚公園」が約30年を経て顕在化した課題を解消し、より効果的な保存と活用を進める再整備を推進している。

そこで、令和4年度に策定した「史跡水子貝塚保存活用計画」で現状と課題を整理され示された整備の基本方針を踏まえ、令和5年度に策定した「史跡水子貝塚整備基本計画」を基に、基本設計等を行う。

(2) 事業名

水子貝塚公園再整備事業（仮）

(3) 事業地

縄文ふれあいひろば水子貝塚公園

富士見市大字水子 2003-1

敷地面積 38,727.80 m²

(4) 事業方針

- ① 基本設計にあたっては、令和5年度に策定した「史跡水子貝塚整備基本計画」に準拠し、さらに検討・発展させ、市民に親しまれる地域資源となる内容にする。
- ② 再整備の方針は以下のとおり。
 - ・ 史跡を未来へつなぐ適切な保存
 - ・ 学びにつなげる縄文空間の再構築
 - ・ 活用につながる施設と事業の拡充
 - ・ 安心・快適な空間づくり
 - ・ 市民とともにつくる環境づくり

(5) 留意事項

- ① 各委員との調整
 - ・ 史跡水子貝塚保存整備委員会、庁内推進委員会等に意見を伺いながら進めていく。
- ② 発注者との協議
 - ・ 業務の実施に当って、その意図や目的を十分に理解した上で適切な人員配置の下、当該業務を行う。
- ③ 定期的な報告と密接な連絡帳を図る。

(6) 履行期限

令和8年3月13日（金）



図-1 史跡水子貝塚史跡指定範囲図

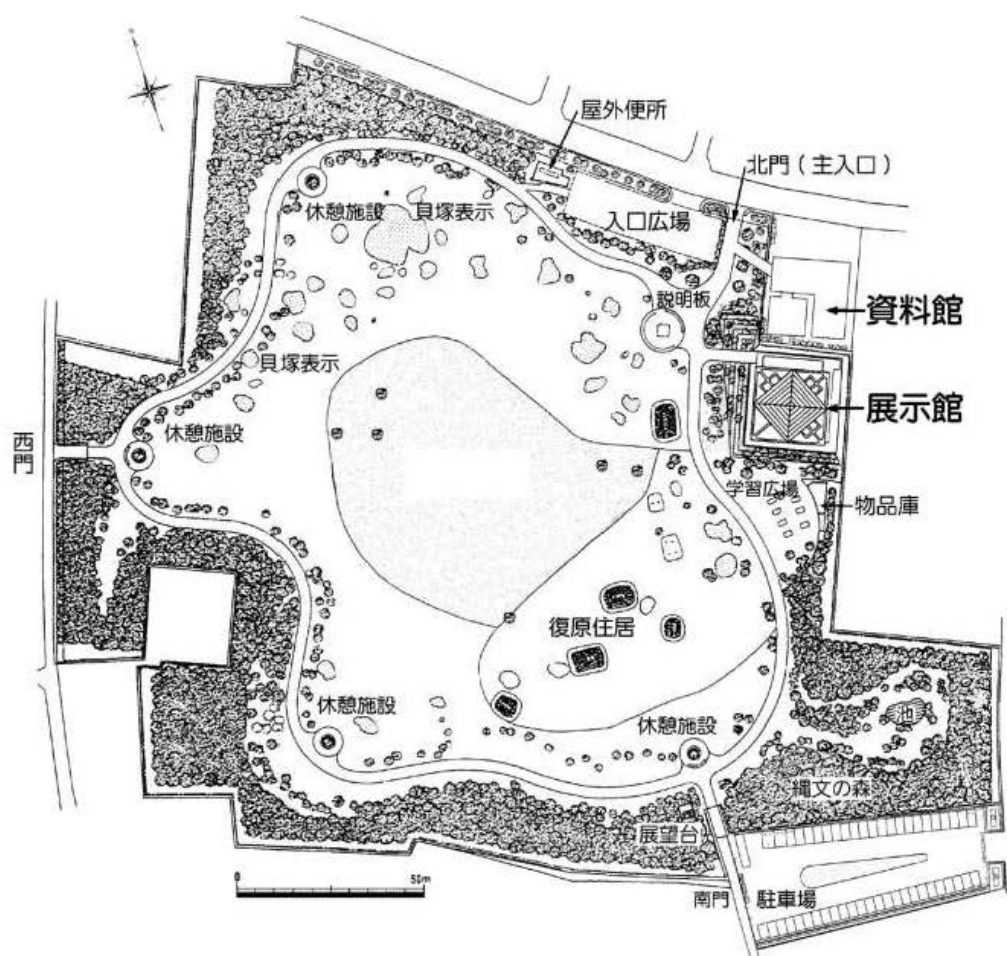


図-2 史跡水子貝塚配置図

Ⅱ 基本設計の内容

1. エントランスゾーン

(1) 史跡名称板と大型解説板の設置

①正門、南門、西門に設置

基本計画では各門に銘板（磁器板製）を設置することが検討されている。史跡の重みを感じてもらうため、石製の史跡名称板（一般的に史跡に設置されている）を各門に設置しすることにした。

また、正門入口入った左側資料館前から新設する厨房施設前までのオカメザサを伐採し、インターロッキング敷きの小広場をつくり、そこに集約した大型の総合説明板を設置する。

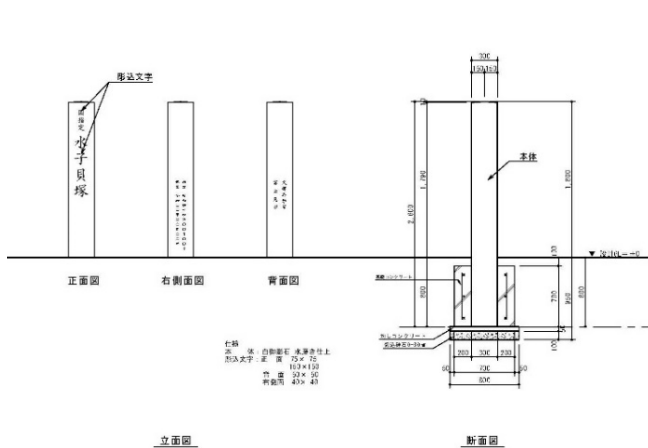


図-3 史跡名称板

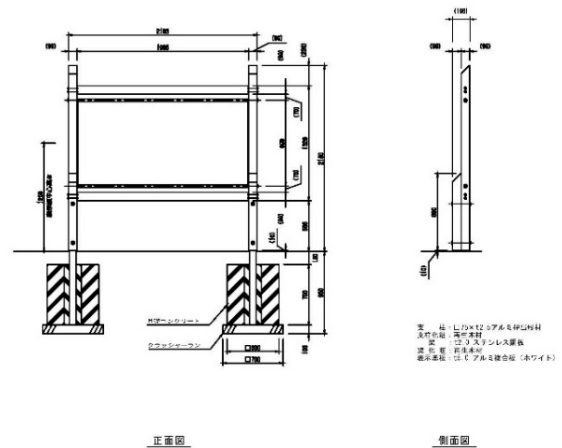


図-4 大型解説板

②大型説明板を改造

正面入り口正面の円形状の説明広場の中央にある説明板の平坦面の大型陶板に割れが入り修復の必要が生じている。展示内容を再考し陶板の上に新たな説明板を設置する。

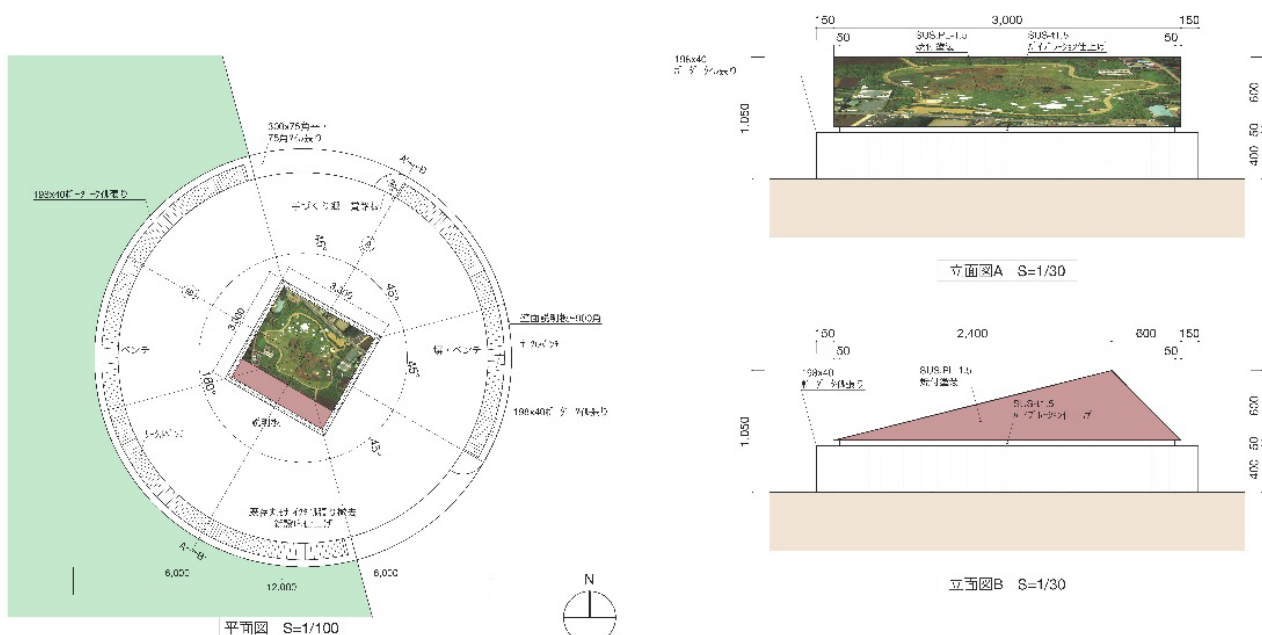


図-5 大型説明板図

2. 学習ゾーン（展示館）改修計画

（１）内装の改修

- ・天井：既存の FRP 復元住居跡上部に足場を組み、張替え及び設備機器等の取り換えを行う。
- ・壁：展示館既存の外壁側周辺壁内装を撤去し、新たに展示用の間仕切を設置する。
- ・既存のスクリーン及び地形模型を撤去し、外壁側に大型の映像モニターを設置する。
- ・天井のライトスパンに LED 照明器具を増設する。

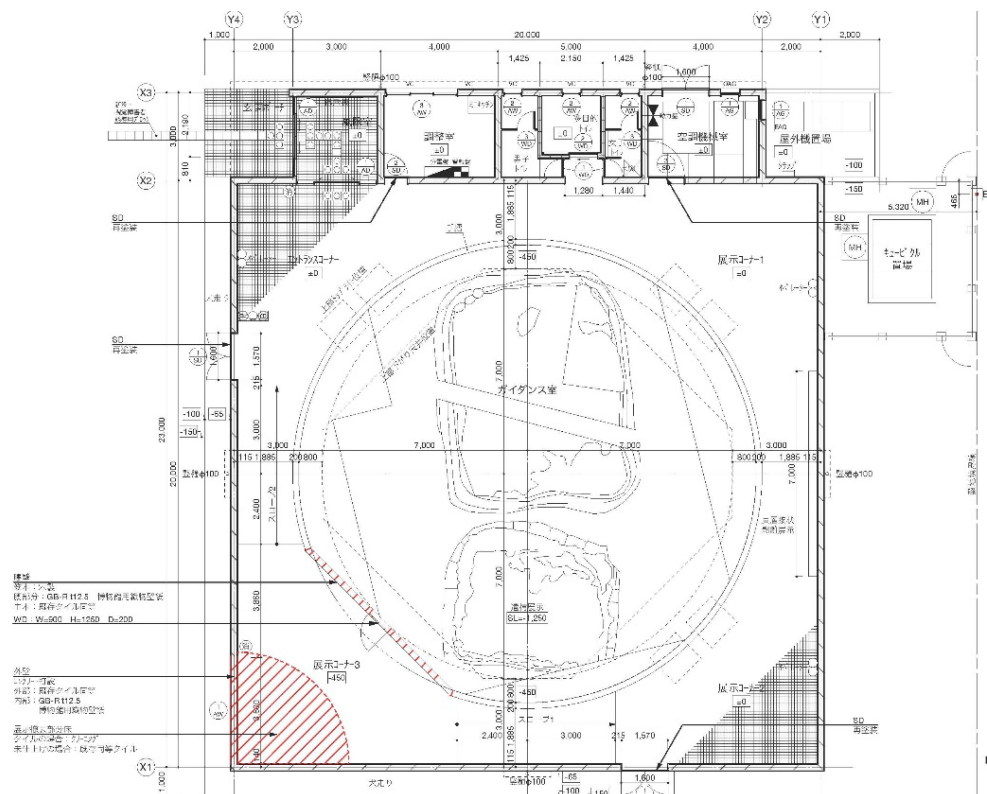


図-6 既存平面図（改修前）

- ・既存の展示物を撤去し内容を一新する。
- ・映像の内容（ソフト）と中央の造形保存展示の説明の連動は取りやめ、見直し一新する。

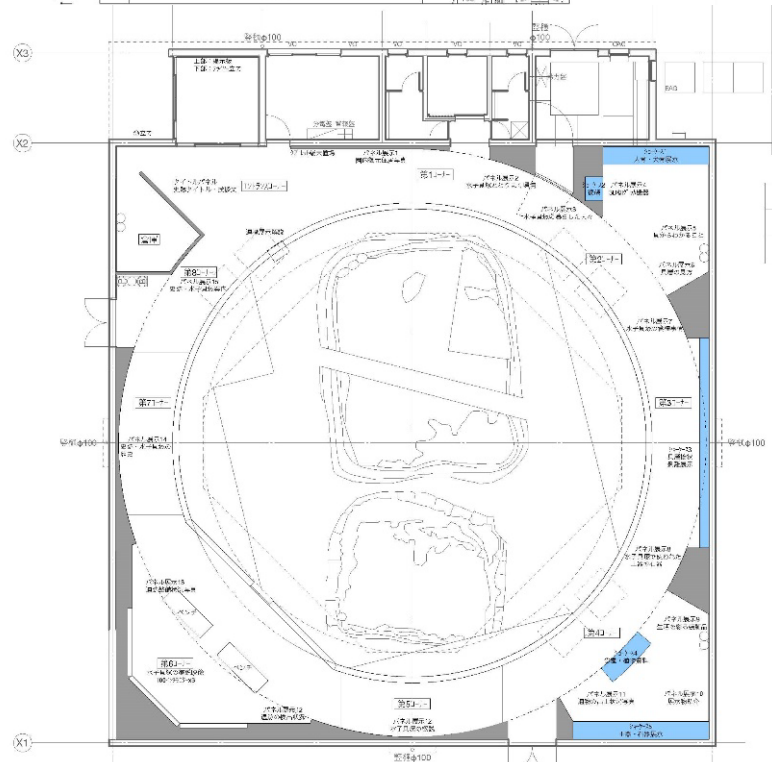


図-7 計画平面図（改修後）



写真-1 展示館改修・模型

(2) 水子貝塚ガイダンスの展示計画案

	展示テーマ・内容	パネル
第1コーナー	テーマ1：【 水子貝塚に暮らした人々 】 ●人骨の復顔 3Dホログラムで復顔を投影 ●犬骨の復顔・規格 (ホログラムできるか) テーマ2：【 水子貝塚の食糧事情 】	・水子貝塚 ・縄文海進 ・出土人骨と犬骨 ・貝塚に残された食生活の痕
1 ↓ 2の間	●貝層剥ぎ取り断面	・貝からわかること
第2コーナー	テーマ3：【 生活の道具 】 ●土器・石器 3Dホログラムで土器投影 ●圧痕の土器片	・出土した土器 ・土器に残された圧痕が語る
第3コーナー	映像コーナー ※現状のスクリーンを外す。	
3 ↓ 入口	テーマ4：【 水子貝塚発掘調査の歴史 】 ●機械で昔の地形と現地形を比べられるものが置けないか（遺跡も表示） 【 水子貝塚に植栽された樹木 】	・調査年表 & 調査史説明 ・昔の水子貝塚写真 ・樹木説明

表-1 展示計画案

(その他)

※中央展示部分で、タブレットを利用して発掘風景や発掘前の貝塚の状況や水子貝塚の上から見た空撮映像などをARで見られるようにしたい。

※各パネルには、QRコードを設置し、多言語化に対応できるようにする。

3. 縄文時代の体験学習ゾーン（学習広場と厨房施設）

（1）学習広場

当初案の中央の柱を除き、コンクリートの壁柱を採用、屋根は木造で天窓付きとした。



図-8 学習広場平面図

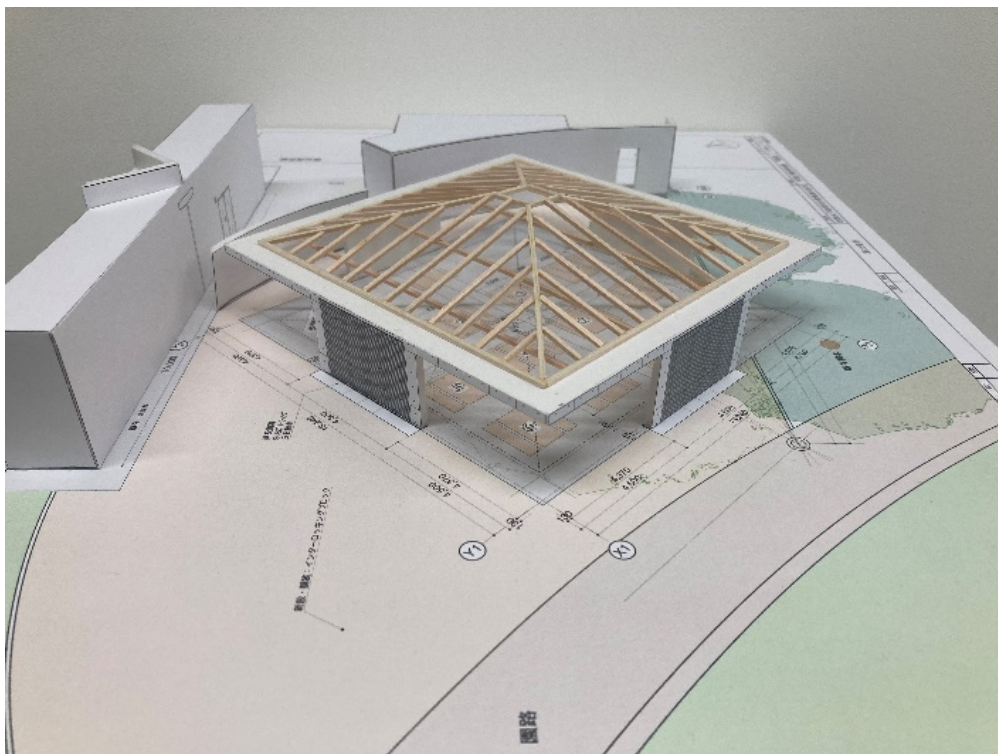


写真-2 学習広場・模型

(2) 厨房施設

トイレ、洗面所や更衣室、事務室などは既存事務棟を使用することとし、縄文の食文化の体験学習などに使えるように、ワンルームの多目的室として計画した。史跡側にカウンターを設けているが、既存の建物との間にも外部だが多目的に使える空間を設けた。

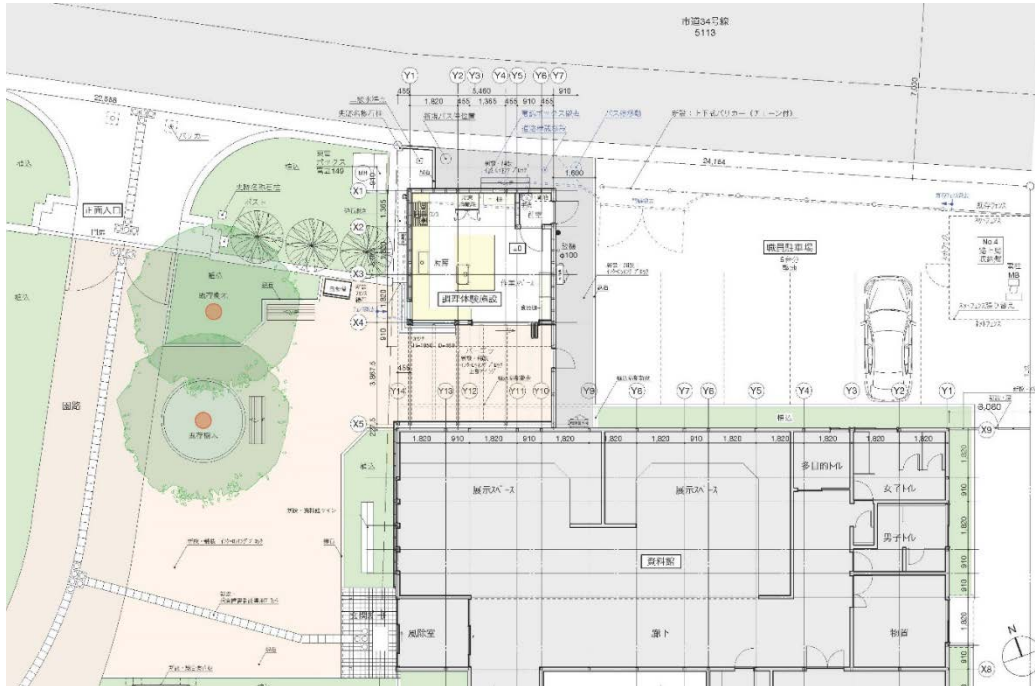


図-9 厨房施設平面図



写真-3 厨房施設模型写真

4. 植栽計画

(1) 植栽の方針確認

植栽ゾーニングについて、弊社に保管してあった植栽ゾーニングの資料を抜粋し、令和6年の基本計画報告書と合わせて当時の考え方を改めて整理を行った。

弊社の資料より、植栽のゾーニング分け（図-20）は次頁のA～Kで当初の計通りである。基本計画報告書にもあった通り、縄文時代の再現植生は落葉樹主体であるが、外周は現代の街との遮蔽を兼ねていたため、落葉樹（アカシデ、コナラ等）に常緑樹（マテバシイ、アラカシ等）を含む森林植栽となっており、縄文の森ゾーンの外周部分にも同じ考え方で植栽されていることが分かる。また、図-20で縄文の森ゾーンとなっている部分は、Gの食餌樹種主体やFの閉じる常緑樹主体となっている。

上記を踏まえた上で、基本設計の方針を検討した。

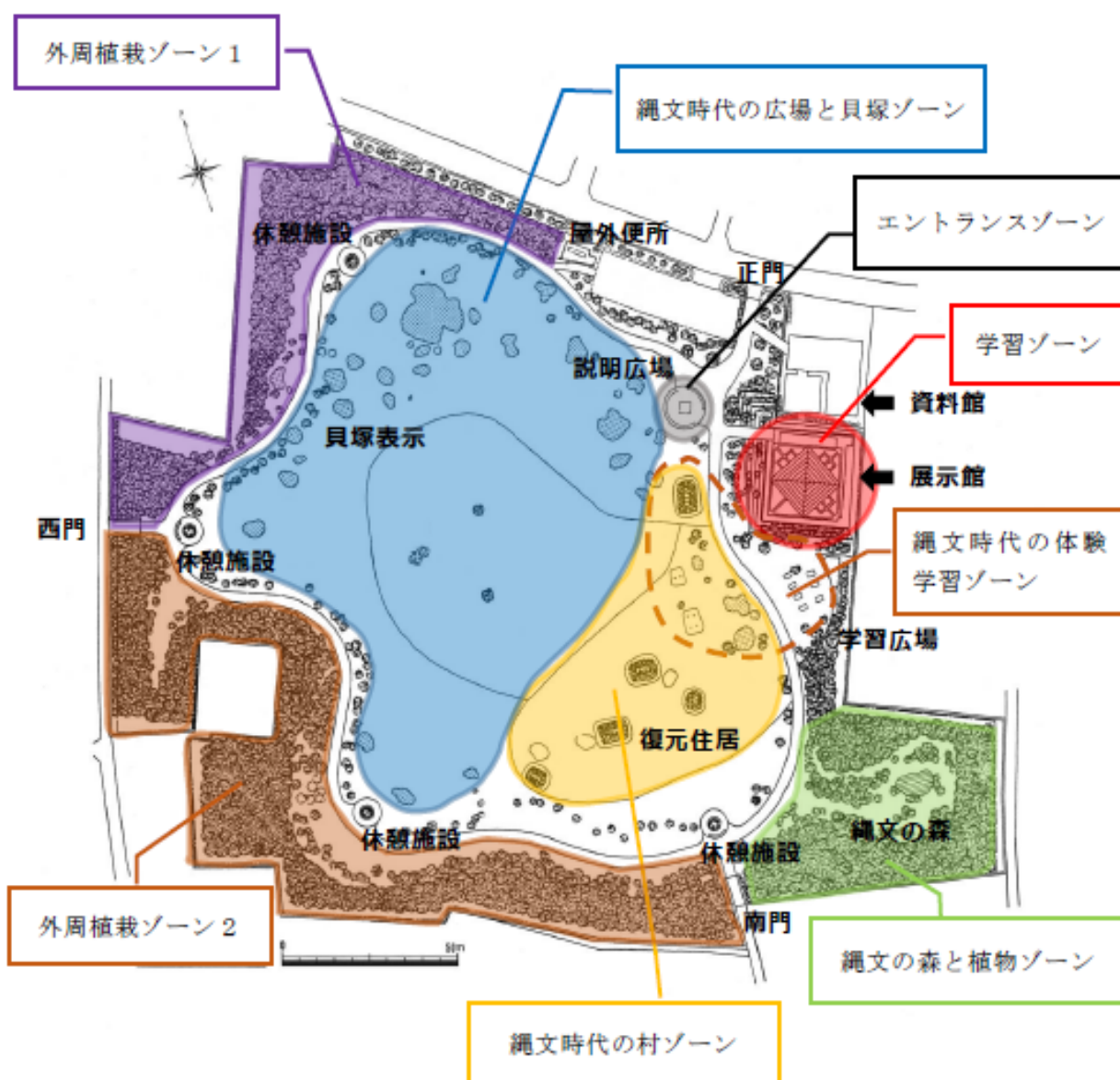


図-10 ゾーニング図

- A: 遮蔽植栽 (高木常緑樹主体)
 B: 縄文時代植栽 (高木落葉樹主体)
 C: 縄文自体の林道 (高木落葉樹主体)
 D: 花木植栽 (高木花木主体)
 E: エントランス植栽 (ケヤキの
大木主体)
 F: 絞り込み植栽 (高木常緑樹主体)
 G: パードサンクチュアリー植栽
(食餌植物主体)
 I: 野原広場
 J: 土の広場

凡例

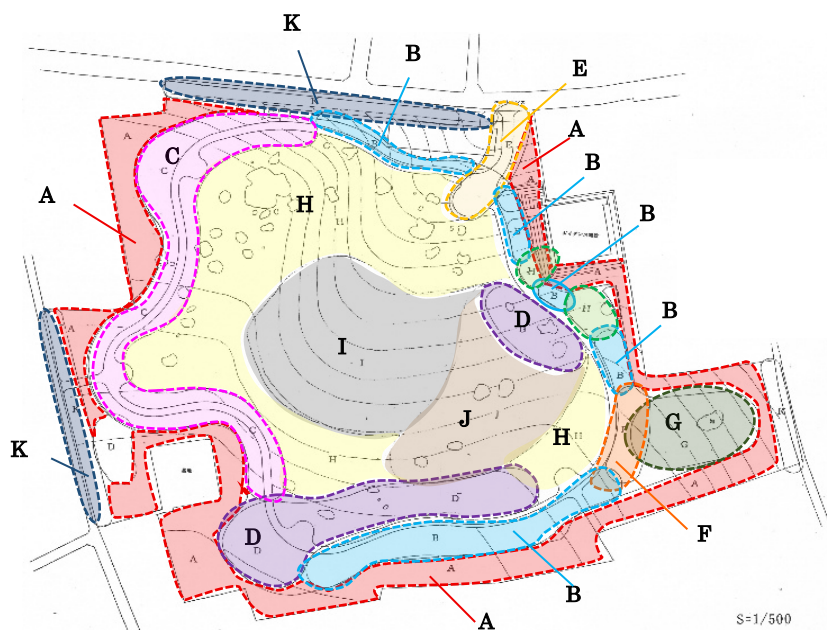


図-11 植栽ゾーニング図 (平成3年次)

(2) 植栽の計画

① 縄文の森

基本計画報告書の通り、高木がかなり大きくなっており、暗い状態になっている。そのため、樹木の健康状態を維持するために間引きをする必要がある。公園を囲むフェンスから3m以内の高木伐採と基本計画にあるが、ライン上に伐採すると不自然になるため、間引きと合わせて現地を確認しながら森の要素を完全に失わないように注意が必要である。

新植は、外周植栽ゾーンと同じ樹種のオニグルミ、トチノキ等になっているが、他にも縄文の森に適した落葉樹がある。外周植栽ゾーンとは違う樹種にする方がエリアで違いを楽しめるため、望ましい。当時の計画と比べて現状の公園内に残っている樹種を確認した上で、提案したい。

② 外周植栽ゾーン1、外周植栽ゾーン2

高木の状態は縄文の森と同様である。間引きや3m以内の高木伐採等も同様である。また、新植を検討している樹種のオニグルミ、トチノキは日当たりの良い場所を好み、乾燥や西日を嫌う。クリも日当たりを好むため、植える際は適した場所を検討する必要がある。このことから、上記樹種が衰退した原因は日照不足の要因が大きいと思われる。

その他、外周植栽ゾーン1の一部は、市民と協働管理エリアを設けるとあるため、この部分も日照を確保できるようにする。

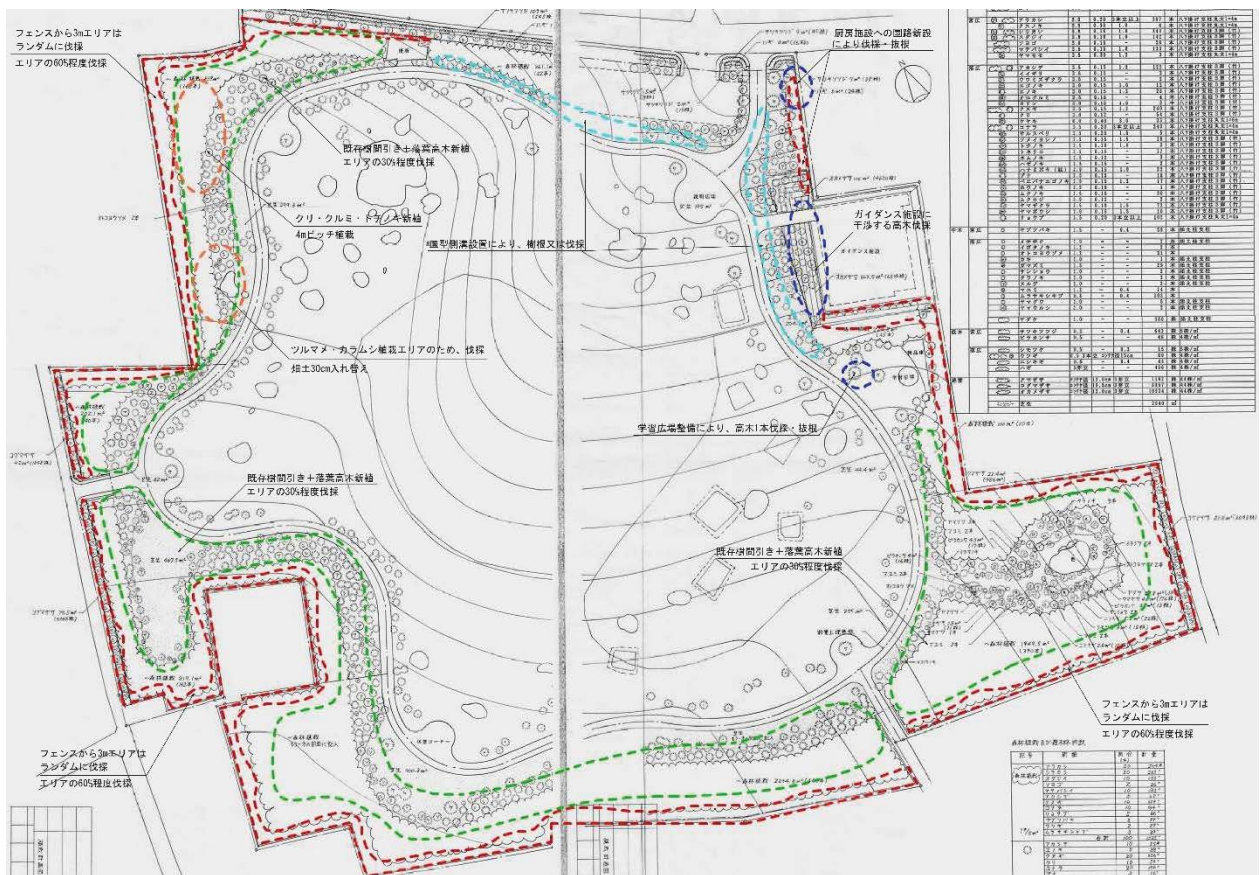


図-12 植栽計画イメージ図

③ 展示館付近

展示館入口前の高木が大きくなりすぎており、建物に干渉している。そのため、樹木を伐採して整理する。

④ 厨房予定地付近

駐車場部分に厨房設置を予定しているため、動線として園路を設置する。それに伴って、妨げとなる部分の樹木を伐採して整理する。

(3) 管理設備の計画

① 保存盛土

基本計画報告書の通り、樹根の遺構へ影響するものは調査後、伐採が望ましい。懸念されている通り、豪雨時に盛土の表層が再度流れてしまう可能性があるため、排水計画以外の方法も検討したい。

② 園路付近の根上り防止対策

根上りは、舗装を修繕しても根本的な改善にはならず、再度起こる可能性がある。そのため、舗装部分の真下は根を健康的に路床に誘導させる根系誘導耐圧基盤の設置を計画する。

5. 排水計画

冠水範囲解消のため、雨水浸透施設や芝生の貯水池等を検討したが、掘削深さの制限により十分な雨水浸透施設を設置することが難しい点や、貯水池のために石積や土手を作ることによって現在の景観を変えてしまうことがあまり望ましくないため、既存浸透トレンチを利用して、なるべく雨水を外に出さないような工夫を行う排水計画とする。



図-13 排水計画イメージ図



現在の景観とは異なる風景となる

写真-15～18 石積や土手のイメージ

6. 舗装計画

根上り防止対策により、高木の根系切断範囲の園路や、排水計画により浸透トレンチを延長する範囲の園路はやり替える計画とする。また、厨房施設や学習広場は前記の通り、インターロッキング敷きとする。

7. サイン・看板

次頁サインリスト 1,2 に示す、総合説明板、公園全体図、遺跡名称板、説明板、注意看板、矢羽、等サインを下図のように設置する。



図-25 サイン・看板配置図

■サインリスト-1

名称	遺跡名標板	公園全体図	縄文時代の森 説明板	矢羽サイン-1、-2	総合説明板 (免状水子具の概要・指定整備経緯説明の看板)
イメージ					
詳細図					
素材	白御影 水磨き仕上	支柱(アルミ押出型材 着色アルマイト クリア塗装) パネル(アルミ押出型材 着色アルマイト クリア塗装) Fパネル(11.5 アルミ板 合成樹脂被付塗装(ホワイト)) 裏パネル(11.5 アルミ板 合成樹脂被付塗装)	支柱 □30 ステンレス無塗装 合成樹脂被付塗装(ブラック) Fパネル(11.5 アルミ板 合成樹脂被付塗装(ホワイト))	表示基座(11.5 アルミ板 合成樹脂被付塗装(ホワイト)) フレーム(アルミ板 合成樹脂被付塗装(ダークブラウン)) 固定金具(304 ステンレス鋼) パネル(3mm厚) 支柱(45材(鋼管材)φ160 AAC仕込注入熱縮樹脂) 被覆材(耐候性ポリウレタン系(ダークブラウン)) 支柱金具(φ6.3鋼板、φ75.3鋼管、鋼管固定金具)	支柱(アルミ押出型材 着色アルマイト クリア塗装) Fパネル(アルミ押出型材 着色アルマイト クリア塗装) Fパネル(11.5 アルミ板 合成樹脂被付塗装(ホワイト)) 裏パネル(11.5 アルミ板 合成樹脂被付塗装)
サイズ	□300×H1800mm	W1382×H2005×D1000mm	W1000×H1030×D448mm	W716×H1240×D160mm	W1892×H2005×D1000mm
場所	南門・西門・説明広場手前	南門・西門	縄文の森	縄文の森入口、展示館・資料館付近	資料館前

※写真はインターネットやカタログから引用しています。

表-2 サインリスト-1

■サインリスト-2

名称	縄文時代の果林	縄文時代の食用、生活用植物	注意看板-1、-2		
イメージ					
立面図・断面図					
素材	パネル(アルミ押出型材 1.5mm厚 合成樹脂被付塗装(ホワイト)) ※サイズ: 400×400×12.0 ※材質: 支柱/ステンレス、台座プレート/ステンレス 表示板/ステンレス ※仕上: 支柱、表示板/ウレタン樹脂塗装(メタリックグレー) ※台座基座(アルミ押出型材 着色アルマイト(スタンダード)クリア塗装) 支柱上蓋(アルミ押出型材(ブラック))	Sパネル(表示基座(1.5mm厚 合成樹脂被付塗装(ホワイト)) Sパネル(表示板(ステンレス)専用(ダークグレー)) ※材質: 支柱/ステンレス、台座プレート/ステンレス 表示板/ステンレス ※仕上: 支柱、表示板/ウレタン樹脂塗装(メタリックグレー) ※台座基座(アルミ押出型材 着色アルマイト(スタンダード)クリア塗装) 支柱上蓋(アルミ押出型材(ブラック))	※材質: 400×400×12.0 ※材質: 支柱/ステンレス、台座プレート/ステンレス 表示板/ステンレス ※仕上: 支柱、表示板/ウレタン樹脂塗装(メタリックグレー)		
サイズ	W1066×H1854×D108mm	W1066×H1854×D108mm	W1000×H800mm		
場所	果林	市民館前の植物栽培地	弥生住居・北門・南門・西門		

※写真はインターネットやカタログから引用しています。

表-3 サインリスト-2

